日本史籍講読3－Ⅲ

科目ナンバリング　JPH-405
選択必修　　2単位

深谷　幸治

1. 授業の概要（ねらい）

この日本史籍講読3C-Ⅰの授業目的は、日本史の前近代専攻を希望する学生諸君が身に付けておくべき能力としての、過去の人々が作成した諸史料(書状・記録・日記・文学など)を実際に読み、現代語に訳し、その内容を理解し、ひいてはその時代ごとの諸相を考察していく力を取得することにある。

その実現のため、学生諸君に行ってもらうべき具体的な対応としては、提示される各史料の原文(活字化されているもの)をまず読み、そこに現れる人名・地名・語句等を調査し、あるいはその筆者や成立当時の時代背景などについても調べ、授業内で発表・報告してもらうことである。形態的には演習に近い授業となる。学生諸君はまずグループに分かれてもらい、そのグループ毎に割当てられた史料につき上のような調査・発表を実施してもらう。必要であれば、そのための基礎力となるべき古文・漢文要点の講義・説明や、古文書学的な解説を担当教員が行う。学生諸君は、提示された史料を毎回全員で読み、その上で担当グループが作成してきた現代語訳や調査内容を載せたプリント(レジュメ)を配布し、中身を発表する。その後内容につき議論し、また担当教員が適宜補足する。前期で2回程度発表の順番が当たるので、その心づもりをしておいてもらいたい。

2. 授業の到達目標

学生諸君は、過去の人々が実際に書いた史料の内容を読み、訳し、理解することによって、歴手学的な知識を獲得し、かつそれを議論や説明によって分析していくことで、史学科学生としての経験値・知見を増加させることができる。

また学生諸君は、上のような授業形式により得られた体験・知見、あるいは分析方法や調査法をもって、他の授業で必要なレポート作成や将来的な卒業論文の作成に役立てることができ、また職業人としてのプレゼンテーション能力や、状況の把握・分類・対応方法などをも養うことができるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

出席は成績評価の前提となる必要条件である。それを満たした上で、授業毎の発表・報告の内容とそれらへの取り組み姿勢、また前期最後の時間に実施する試験の解答内容を勘案して、成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使用しない。必要な史料は毎回担当教員がプリントで用意し、それを配布する。

5. 準備学修の内容

前近代の史料は当然古文・漢文またはそれらの混交文で書かれている。それを理解するためには高校時代の古文・漢文の基礎を確実に記憶しておく必要があるので、それらの教科書や参考書を取り寄せるなり、図書館で関係書籍を読んでおくなりして、事前に勉強し直しておくこと。また使用されている漢字は現在の当用字体ではなく、旧字体になる。漢字練習が必要。さらに古文書学の授業などを並行して学んでおくことなどが有益。

6. その他履修上の注意事項

受講学生は積極的にグループワークとしての発表・報告を行い、それに関するディスカッションに参加することが期待される。

また以下の授業内容はあくまで予定であり、状況によっては変更されることもあるので、承知しておいてもらいたい。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス・授業の進め方、発表・報告の様式や注意事項などについての説明。またグループ分けを行う。さらにこの時間から古文・漢文の基本的部分に関する復習的授業を実施する。
【第2回】　前回に続き、古文・漢文の基本的部分に関する復習的授業。
【第3回】　可能であればグループ発表を開始したい。1回目は古代の物語など。状況によっては古文書学的な説明授業を行う場合もある。
【第4回】　グループ発表2回目。古代の説話物など。
【第5回】　グループ発表3回目。古代の日記など。
【第6回】　グループ発表4回目。古代の随筆など。
【第7回】　グループ発表5回目。中世前期の記録類など。
【第8回】　グループ発表6回目。中世前期の軍記物など。
【第9回】　グループ発表7回目。中世前期の武家法など。
【第10回】　グループ発表8回目。中世前期の行政文書など。
【第11回】　グループ発表9回目。中世前期の武家文書など。
【第12回】　グループ発表10回目。中世前期の紀行文など。
【第13回】　グループ発表11回目。中世前期の物語など。
【第14回】　グループ発表12回目。中世前期の日記など。
【第15回】　全体のまとめと総括、試験。